

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 2 月 17 日

所 属： 獣医 学部 獣医 学科

氏 名： 村上 裕信 職位：准教授

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

牧場実習、家畜衛生学 II、家畜衛生学実習、動物衛生学、家畜伝染病学実習においては、感染制御を基軸として、動物の管理から疾病制御・予防を目的として授業・実習を行っている。また、卒業論文等に関わる科目では、現在問題となっている感染症の制御法の確立に関する研究を通して、問題解決能力を身につけてもらうように指導している。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
牧場実習	獣医学科	必	2	151
家畜衛生学 II	獣医学科	必	4	149
家畜衛生学実習	獣医学科	必	4	137
家畜伝染病学実習	獣医学科	必	5	149
獣医学特論 I	獣医学科	必	5	3
獣医学特論 II	獣医学科	必	6	5
卒業論文	獣医学科	必	6	5
科学の伝達	動物応用科学科	選	4	1
動物衛生学	動物応用科学科	必	4	125

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

社会には様々な問題があるが、これまで人類はその問題を解決または改善していくことにより危機を克服し、社会発展してきた。特に現代社会における問題は常に変化しており、その変化は過去と比較すると極めて早い。その変化する対応するための知識・能力を身につけてもらうことで、社会で必要とされる人材になり、個人のみならず、周囲の人々(社会)の幸福度が向上すると私は考えている。そのため、私の教育理念は、学生に問題解決力を培ってもらうことである。その問題解決力を培うためには、過去の歴史の成功や失敗例から多くを学びとり、現在発生している問題解決への応用力を身に付けてもらう事が必要であると考えている。この手法は、私の専門である感染症のみならず、様々な問題へ適応できると考えているため、その基盤となる学習をしてもらうことを目指している。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）

これまでの教育では、社会に必要な知識および問題解決能力を備えてもらうことを目的と

し、その目的を達成することにより、社会で活躍できる人材を輩出できることを目標としている。これまでの教育経験では、私の専門である感染症を基軸として、現在および過去においてどのような経験を人類は得てきたのかを講義等で説明する。また、産業動物、コンパニオンアニマル、人の感染症の対策は一様でなく、病原体の種類によっても対策が異なることを説明する。特に、昨今の新型コロナウイルスの人類への驚異やその対抗手段の模索は多くのことを学べ、さらに身近な問題として捉えやすいため、授業・実習・研究室活動の際の具体例として引用して、興味を持ってもらうように試みている。また、人類は現代になっても感染症による差別問題を解決できないことを露呈したため、過去と同じ過ちを繰り返していることも、教育に取り入れ、感染症を基軸とした経済活動や思想についての失敗や成功事例から多くのことを学び取れるように促している。

アクティブラーニングについての取組

現在の問題点や、今後予想される問題点(アフリカ豚熱の国内侵入等)に対して、どのように取り組む必要があるのかを、課題として課し、教科書に記載されていることだけでは導き出せない課題に取り組んでもらっている。

ICT の教育への活用

インターネットを利用して各自必要な情報を独力で収集するような課題を課している。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

- ①教育（授業，実習）の創意工夫（A）
- ②学生の理解度の把握（B）
- ③学生の自学自習を促すための工夫（B）
- ④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（B）
- ⑤双方向授業への工夫（C）

教育の創意工夫では、最新の情報を学生に提示する必要がある、直近のニュースを交えて授業を行っている。学生の理解度の把握は授業中の学生の反応を見ながら進めているが、双方向授業を取り入れることにより、改善が認められると考える。

学生からの質問は、学理上、メール、対面どれでも対応しており、その都度答えている。上記の点を更に改善するために双方授業を取り入れることにより改善が図れるか検討する。

- ⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科，M 学科の教員の方のみ記載してください。）

国家試験対策では、最近問題となっている疾病の推移をまとめ、学生に提示している。さらに、特に特徴的な(国家試験で出題率が高い)疾病を重点的に説明し、効率的な国家試験対策ができるように促している。

5. 学生授業評価（分量の目安：4～7行（160字～280字））

- ①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

直近のニュースを交えることにより、感染症についての理解や解決方法について考えてもらうようにした。

- ②①の結果はどうでしたか。

感染症制御の重要性や取り組みについて、身近に感じながら理解をしてもらえた。

③②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

国内外の関連する様々なニュースや統計情報を授業に取り入れる。

6. 学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

成績向上のためには興味を持つことが非常に重要であることが考えられるため、現在学んでいることは、現在の問題解決にどのように役立つのかを説明している。特に新型コロナウイルスの感染拡大制御など、世界的に関心の高い話題を取り入れて説明をするように考えている。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

授業・実習・研究室での教育活動を通じて、現在の問題点がより理解できるようになったことを学生から評価されている。また、学会発表に参加して、更にその分野に関することに関わりたいために、家畜保健衛生所、ワクチン会社、NOSAI等へ就職先を変更する学生もいる。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）（分量の目安：1～2行（40字～80字））

学内のFD研修等を受講して、授業等で取り入れられることがないかを模索している。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

短期的な目標は、課された課題を独力で考えて解く力をつけてもらうことである。その積み重ねにより、将来の方向性を自身で決定し、社会で活躍出来る人材となってもらうことを長期的な目標としている。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

授業評価